

然るに此始末とは遺憾なこである。

▲そこで其改良方法にも種々あるだらうと思ふが先第一には目下の様な單純な修身科教授に附するに大に佛教の所謂莊嚴を以てすることである換言すれば繪畫、音樂、等の美術を應用して盛んに情意の直接陶冶を勉めなければならぬと思ふ。古偉人の書なども随分よいと思ふ現在でさへ兩陛下の肖像があるが之に加ふるに古偉人の肖像も大に利用す可きものだと思ふ。そして教授の間などに音樂を利用したならば、確かに効力があるに違ひない。

▲尙又講堂の建築が現在のは頗る殺風景である斯んなことで何うして偉大な感化を與へることが出来るか。窓なども色硝子を加へ模様など付けて大に飾らなければ駄目だと思ふ。

四
▲彼耶蘇教を見ても分ることだと思ふ。舊教は新教に較べると種々な莊嚴が多い、從つて能く信徒を統一して行くし其感化力も多いが新教の方は其云ふ事の少い丈に餘り自由過ぎて却つて感化力が少ない様である。

女子教育と人生觀

文學士 三輪田元道氏談

從來の女子教育は今日に於て種々改良を施すの必要あらん。殊に其根本問題として吾人は今日以後の女子は穩健なる人生觀を有する様修養せんことを望む。事少しく哲學めけども方今の女子一般に之なきが爲めに人類としては幸福なる生活を完ふする能はず。他人に對する交際も子女に對する態度も不都合なる事多し。然のみならず近來教育の

る女子の中には往々人生に對する疑惑煩悶の結果自ら死を決するものさへ生ずるに至りぬ。實に自殺狂亂煩悶等の續出するは人生々活に對する疑問の解決なきが爲めなり。多くの女子は高等なる教育を受くるに従ひ益自己の位置と待遇とに對して不平を起すは今日一般の狀態なりとす。之れ果して人生觀ある女子の赴く可き所なるか。婦人の天職を理解し婦人の幸福が果して那邊に存するか覺悟するものの果して傾く可き所あるか。蓋し今日の婦人多くは婦人の天職を知らず。人生に對する一定の理解力の如き之有ること極めて稀なりとす。之れ今日に於ける女子教育が將に努力す可き處ならずや。人生觀の研究は女子自身に對しても安心立命の基礎となり。眞の幸福眞の慰藉が果して那邊に存するかを知らしむるものなるのみなら

す。之れに接する他の人をして又各其所を得しめ其天分を完ふすることを得しむるを得可し。之を男子に對する關係より見るに不健全なる女子の人生觀は發して不平の聲となり、或は男女同權論となり或は女子の獨立生活論となりて盛んに男女相争ふに至る之を一家の中に見るも男子に對する女子の位置は今日頗る不明にして女子の人格を没却し其發展の餘裕を存せざるもの甚だ多し。次に子女に對する思想も人生觀の成立に連れて變化せざる可からず。從來世の父母の考ふる處に因れば子女は恰も兩親の爲めに目的を有するかの如き觀あり。従つて其生育後の方針等も一に兩親の獨斷に決するもの頗る多くして、其性質を察し趣好を探がして以て適當の業務に就かしむるが如き事なし。彼の長兒は之を學者とし次を軍人に末を外交

官たらしめて以て自己の虚榮心を満足せしめんとするものゝ如きは這般の好例なりと云ふ可し。而も今日に於ては教育ある母親程此の如き虚榮心をも有し子女の教育に獨斷を行ふと聞く。大なる誤りなりと云ふ可し。好きこそ物の上手なれと古人も云ひしが如く天才は人爲に依つて養ふ可からず。少くも中學卒業位迄は之を定むること難きものなり。然るに今日の父母は單に自己老後の利益と樂との爲に暴慢にも之を獨斷す誤れるも甚しと云ふ可し。世人が斯の如き父母を見て考ある人なるかの如く思へるも又大なる誤なりと云ふ可し。吾人は世の父母が一日も早く子女をして子女自身に目的を有せしむる様努めんことを望む。轉じて世の父母が子女を如何に取り扱ふかを見るに一家の中最も廣く最もよき家は重に客間若しくは居間

となり居りて充分なる日光と通風の便とを有するに反し子女の遊び暮す可き室は一家の中最もわたり悪く通風少く然も極めて殺風景なる陋屋を以て之に充てて子女の多くは此處に幽閉せられ會々來客われば更に靜肅ならんことを強ひらる畢竟厄介者として扱はれつゝあり。然も世人は此の如きを見て最もよき羨あるものと思惟す。子女は一家の寄生虫に非ず居候にもわらず家屋中に於ける最も貴重なる寶物にして其生育後の状態は以て其父母の人格を表はすものたることを悟らざる可からず。従つて余の見る所を以てすれば最もよき室を供し最もよき位置にあらしむるを要す。之れ云ふ可くして行はれざる所なるが故に余は務めて之を議論するものなり。人或は一個の盆栽に最もよき位置を與へ一匹のカナリヤの爲めに快き場所を與ふる

を惜まざるに獨り人類の子を壓迫して以て良躰と認むるは酷なりと云ふ可し今日以後の主婦たるもの心せずして可ならんや次には婢僕に對する態度も又變化せざる可からず。今日の婢僕は朝は未明より夜は三更に至る迄一寸の余暇もなく自由もなく殆んど牛馬の如く使役せらるる之れ同胞を遇する所以にわらず。眞に婢僕を使ふの道にわらず。是は洋行歸りの人の常に嘆息する所なれど然りとて婦人の頭に彼等を愛護するの念なくば到底之が改善は望む可からず。之れを改良せんには少くも婢僕の人格を認め其發展の餘地を存せざる可らず。例へば一日の中一定の餘暇を與へ俸給は其の一部を貯金し殖利せしむる等の補助を與へて後來一家を建て得る様助けざる可からず。世には宗教に耽りて慈悲博愛を絶叫するもの可なり多けれども一二

の婢僕を酷遇して顧みざるものあるは果して如何なる理由なるや又近來動物虐待防止會とか動物愛護會とか云へるもの有志の間に起れる事誠に美事なりと云ふ可し。然れども人類虐待防止會は夫等より尚一層の急務にわらざるか。我同胞を其苦境より濟ふの考は眞に高尚なる婦人にわらざれば能はざるものなり、而して此の如き思想を有せしめんとせば女子をして大なる修養を積ましめ其人生觀を健全にし人類の靈性の那邊に存するかを發見せしめ古偉人と思想上に其消息を通せしむる様研磨せしめざる可からず。

之を要するに男女の位置關係子女に對する態度、婢僕取扱の方法等をして理想的なるものたらしめんとせば須らく高尚なる修養を積み虚榮に走らず浮華に失せず穩健なる人生觀を以て世に處する

の覺悟なかる可からず。近頃社界改良論頻りに起り種々なる目論見實行せらるれども其實績の思はしからざるは一に婦人の修養に缺くる所多ければなり。

盲目で聾で啞でありながら北米の某大學を卒業した、名高きヘレン・ケラー嬢と云ふは、觸覺がよく發達して居て、其指先を人の唇と咽喉とに當て、居れば、能く其人の話を聞くことが出来、美術品なども能く手探ぐりで彫刻の巧拙を批評すると云ふことである。何とスらいものではないか。

女子の修養に就きて

下田 歌子

八

凡そ學問でも技藝でも、たい先生に習つたばかりで、打捨つて置いては何にも成りませぬ。その習つた事を忘れぬ様にお復習をして、そして猶其れが果して實地に行はれ得るか否かを考究し、若し甘くゆかぬのはどう云ふ譯であるか、どの點に違算があるかと云ふ事をよく調査し、そして其短きを足し、冗なるを省き、漸々學理を實地の應用に成功するやうにせねば成りませぬ。況んや、修身齊家の如きは、猶更理論ばかりではゆかぬ。善く常識に達し、機變の智に富み、しかも確乎不拔の精神を養ひ、所謂温嚴宜しきに適ふやうにやらねばならぬのですから、其れには實際實地に就きて、斯道に適する行ひをした人の傳や談話を聞